

『「命ある」ということ』

熊本県

熊本県立大津高等学校 三年

守口 亜弥もりぐち あみ

私は今まで、何度も「命を大切に」と言われてきたが、正直、深く考えたことはあまりなかった。だが、深迫さんご夫妻の話聞いて、これまでより、命の大切さが分かったと思う。何故かずっと、命は簡単には無くならないと思っていたが偶然重なり、一瞬にして奪われてしまう、儂いものだということを実感した。

私は今回の講演を聞いて、「命さえあれば、やり直しができる」という言葉が心に残っている。私はよく、失敗を恐れて諦めたり、自分の力の限度を決めて挑戦すらしなかったりすることが多い。しかしそれは、命を無駄にしているのではないかと考えさせられた。忍さんは自分の手で夢を叶えることができなかった。そんな忍さんからすると、今の私のような人は羨ましくもあり、憎くもある存在で、どれだけ命をもつたいない使い方をしているのだろうと思うに違いない。命を無駄にしないように、自分のやりたいいことを見つけて一生懸命に生きたい。そして、失敗を恐れずに色々なことに挑戦し、失敗したら、またやり直したいと思う。

また、今回の講演を聞いて、命は有限で、その期限は誰にも分からないということに改めて強く感じた。不慮の事故で亡くなる人はとても多い。その人たちはきっと「こんな所で死ぬはずじゃなかったのに。」と思うだろう。もしかしたら、私も明日死んでしまうかもしれない。家族や友人だって、いつ命を失ってしまうか分からない。もし、今、自分や身の回りの人が命を失ってしまったら、私は後悔しか感じないだろう。今の私には、周りの人に伝えなければいけないことが沢山あると思う。今まで、「いつか言おう。」と思って生きてきたが、その「いつか」は来ないかもしれないと思うと、伝えるべきことはすぐに伝えていくべきだと思った。まずは、しっかり家族に感謝していききたい。「一日一日を大切に。」という言葉をよく耳にするが、この言葉の意味を深く感じることができた。私は、新型コロナウイルスが流行し始めて、自分のしたいことが全然できずに自暴自棄になったり、憂鬱な気分になったりして一日を終えることが多かった。しかし、命は有限と知った今、一日を暗い気持ちで終えるのはもつたいないことだと思った。これからはもつと幸せな気持ちで一日を終わらせていきたい。また、周りの人も幸せになれるようなことを沢山伝えていきたい。いつかは、私の周りが幸せに溢れ、その幸せが色いろな人に伝染すると嬉しく思う。

忍さんは偶然が重なり、簡単に命を失ってしまった。でもその時、たくさんの人が忍さんの死を悼んでいたと聞いて、とても周りの人に愛される方だったのだと思った。私も周りの人に愛されるような生き方をしていきたい。忍さんの命が偶然によって失われてしまったように、私は偶然、生きているのだと思う。沢山の偶然が重なって今の私が

ある。そして同じように偶然が重なって周りの人が生きている。今まで、人と関わり合
って生きていくのは当たり前だと思っていたが、今の私がいるのは奇跡なのだと感じた。
これからは、「命を大切に」「一日一日を大切に」して、失敗を恐れずに色々な事に
挑戦したい。失敗しても、命ある限りやり直し続け、毎日楽しく生きていこうと思う。
そして、自分の命やこれまで関わってきた人たちの命があるのが当たり前だと思う、
感謝して生きたい。